

【広辞苑】によれば

志村 泰元 陸自65

「偕行社は解散した団体である」

『広辞苑 第七版』（岩波書店）には「偕行社」について次のように書いてある。

「旧軍の現役将校および相当官を社員として相互扶助や親睦事業・教育研究事業などを行った団体。一八七七年（明治10）創立。第二次大戦後解散」

だから広辞苑によれば、偕行社は解散したきりだ。「水交社」についても似た記述であるが「解散」とは書いてない。私の見落しかと不安なので、広辞苑を手にする機会に確認されたい。気になって更に別のところを見た。

南京は「ナンキン」が見出しでその下に「南京大虐殺」がある。

「一九三七年二月前後に南京城内外で日本軍が中国軍の投降兵・捕虜および一般市民を大量に虐殺し、あわせて放火略奪強姦などの非行を加えた事件」とある。

【竹島】の帰属について【韓国・北朝鮮が独立後その領土権を主張して係争中】とある。

【従軍】のところに【従軍記者、従

軍記者、従軍慰安婦】がある。【従軍慰安婦】の説明は次のとおり。

【日中戦争・太平洋戦争期、日本軍管理下に戦地の慰安所で将兵の性の対象とされた女性。植民地・占領地出身の女性も多く含まれており、徴募や服務にあたって強制があった】

「従軍看護婦」は召集または志願によって服務したものだそうだ。その「従軍看護婦」の記載がなく（いわゆる）「従軍慰安婦」が載っている。

私は以前「偕行」に、従軍看護婦だった近所の平素は優しい普通のオバちゃん（が突如別人のように）「変身」して、溺れた子供を蘇生させた子供の頃の目撃談を載せてもらったことがある。

以上の他、センチティブな事項をいくつか見た。「ネガ」を見る思いがした。だから「○○」によれば「（に）は慎重でありたい。

私は「大辞林」（三省堂）（第二版一九九五・一）を使っている。

【偕行社】【従軍】については『広辞苑』とはほぼ同じ記述、「ナンキン」【南京大虐殺】については更に「このとき殺された中国人の数は極東軍事裁判では二〇万人以上、中国側の発表では三〇〇四〇万人とされる」とある。

【竹島】の帰属については【一九〇五年（明治三八）、日本が領有を宣言】とある。

『広辞苑 第七版』は今年1月に発売された。改定は十年ぶりとのことだ。いくつかのマスコミが「台湾」「LGBT」「しまなみ海道」などについて問題点を指摘した。百科事典的な要素もあるのに、かの「拉致事件」に全く触れていないのはおかしい、という指摘も見られた。そのほかにもいくつかの指摘があった。指摘に基づいて出版社が修正の方針を示した事項もある。

手元に『広辞苑の罫―歪められた近現代史』（水野靖夫著 初版二〇一三・一二・一〇 祥伝社新書）がある。

『広辞苑』の主として百科事典的な事項の記述が、版改定の都度どのように変化して来たかが書いてある。

我々はしばしば「広辞苑によれば」というフレーズに接する。アタマから信用しがちである。しかしそれがどうい性格の文章かはさておき、歴史や社会現象等に関する事項について「（国語辞典たる）○○によれば」（に）は、自ら使うときにも他者の文を読むときにも、要注意である。

第2次大戦後に解散した筈の偕行社が厳然として存在するではないか。